

COVID-19感染症の 人種差を考える

茨城県保険医協会副会長 高橋 秀夫

新型コロナウイルス COVID-19 感染症は2年近くに渡り全世界に蔓延し続けており、人々の生活に未だにさまざまな制限をもたらしている。感染が広がり始めた頃はほぼ全世界一斉に広がり始めたが、最近の状況を鑑みると感染状況に国による差異が生じてきているのがわかる。幸い日本国内においては感染者数、死亡者数病床利用率などの指標は諸外国に比べて明らかに低下してきている。一方で海外に目を向けると欧米の感染者数は高止まりであり、11月10日現在1日当たりの感染者数はアメリカ10万人、ロシア4万人、フランス1万人に対して日本はたったの204人である。

それではこのような国別差異が生じる要因について考えてみたい。①ワクチン効果：11月10日現在ワクチン接種を2回完了した割合は日本74.38%、フランス68.33%、アメリカ57.25%、ロシア34.02%であり、日本は諸外国に

比べて極めて高率である。ワクチン行政のあり方、国民のワクチンへの信頼感なども影響するのだろうが、治験の基礎データ接種開始後の各種指標の変化をみてもワクチンが効果的であることに異論はないであろう。②防衛手段の徹底：マスクの着用状況、ソーシャルディスタンスの確保、手洗いがいの励行など個々人の防御の他に飲食店などでも消毒の徹底されており、メディアを通じて外国から届く映像をみても日本人の感染対策意識は外国人に比べて非常に高いと言えよう。③水際対策：諸外国の海外からの入国規制と比べると日本のそれは極めて厳しいものであり、ウイルスを持ち込ませない対応が徹底している。東京オリンピック開催に反対する国民の声が多かったことにもそれが表れていると言えよう。最近是一部ビジネス客などの入国制限を緩和する向きがあるが、観光目的の入国が認められるようになるのは当分先になると思われる。また、日本は島国であり、陸地から直接国境を越えることができないのも一因であろう。④その他の要因：甲状腺疾患は東洋人に多いなど、民族間において感受性の異なる疾患があるのも事実である。もしかしたら、日本人はこのウイルスに対する免疫力が高い民族なのかもしれない。

さまざまな可能性を思いのまま綴ったが、COVID-19に関してはまだまだ謎が多く、真実を知っているものは誰一人としていないのが現状である。私も含めて一日も早く解明されることを世界中の人々が願っている。